

プロジェクト課題NO.1

ほ場整備を契機とした営農体制の整備

活動期間：令和6年度～令和7年度

対象者：株式会社大輪

チーム員：大槻恵太、青沼達也、永田悦祈

1 課題の背景・ねらい

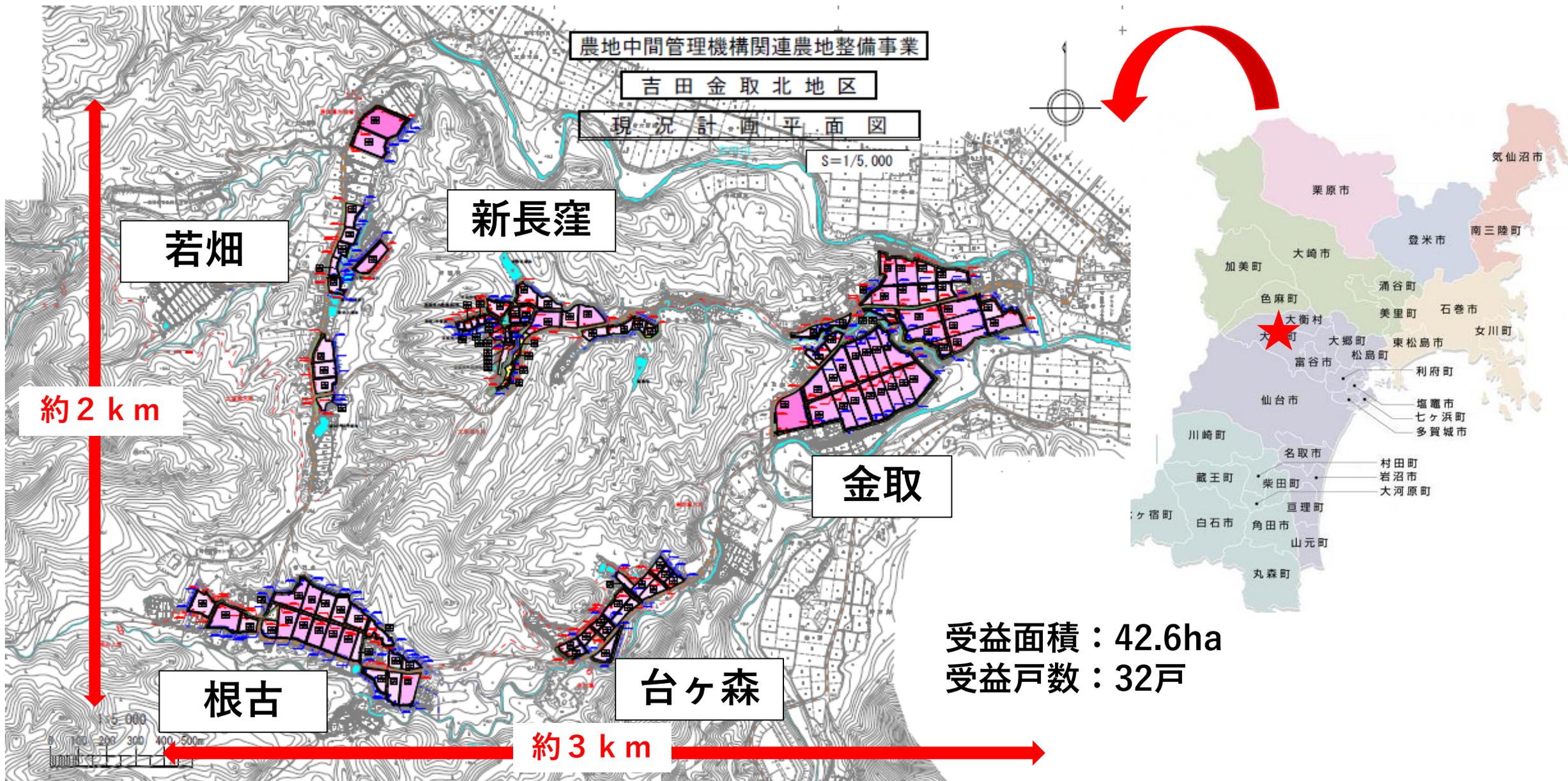
(1) 背景

- ・ 大和町吉田金取北地区は、稲作を中心とした中山間地域。
- ・ 令和3年に農地中間管理機構関連農地整備事業予定地区（受益面積42.6ha ※賃貸借）に採択され、新たな担い手組織に地区内の全ての農地が集積される予定。
- ・ 新たな担い手組織として、令和5年5月に**株式会社大輪が設立**された。
- ・ 同法人を核とした地域の営農体制づくりに向けて、**急激な農地集積への対応や法人経営の安定化**が課題となっている。

(2) ねらい 【定量的数値目標】 地区営農計画 現況 (R5) : 0 → R6 : 0 → R7 : 1

- ・ 新たに集積された農地の特性を把握し、ほ場環境に適した農地利用が図られる。
- ・ 収益性の高い農作物が安定して生産できるようになり、経営の安定化が図られる。
- ・ 企業として従業員を雇用するための環境が整備される。

【株式会社大輪 概要】 経営概要：水稻24ha、大麦5.5ha、大豆6.9ha、園芸品目1ha（ピーマン、ねぎ、さつまいも、はくさい）
構成員等：役員1名、正社員1名（令和6年4月より新規雇用）、パート社員1名



- ・ 県立自然公園船形連邦・七ツ森に囲まれ、一級河川吉田川沿いに耕地が広がる中山間地域

2 活動内容

(1) 農地の効率的利用支援

令和6年産 仙台麦作情報 2023. 5. 10 第6号
宮城県仙台農業改良普及センター
Tel 022-275-8410 Fax 022-275-0296
https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk

今後の栽培管理のポイント
出穂期が平年比べて早くなっており、刈取り適期も早まると考えられます。
○意の成熟状態や子実水分をよく確認し、刈取り期に努めましょう！
○子実水分をごまかに確認し、乾燥・調整を行いましょ！

1 気象経過 (10月第1半旬～5月第1半旬、仙台アメダス)

2 今後の栽培管理
出穂期が早く気温も高いため、5月下旬に刈取り適期を迎える見込みです。
適宜収穫を確認し、刈取り期に努めましょう。

(1) 成熟期及び刈取り適期の目安
4月の記録的な高温の影響で、生育ステージが平年より早い見込みです。また、今後も気温が引続き平年よりも高くなる見込みです。夏の収穫は収穫量や品質面を考慮し、早刈りや刈遅れなく適期に刈取る必要があるため、早めに収穫で夏の状態を確認して、刈取りの準備を進めましょう。

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
降水量 (mm)	120	100	80	60	40	20	10	5
平均気温 (℃)	10	12	14	16	18	20	22	24
日照時間 (h)	150	160	170	180	190	200	210	220



- ・ 水稻、大麦、大豆の技術的支援 (防除適期、収穫適期等の情報提供)
- ・ スマート農業実践支援 (ドローンで使用可能な薬剤情報の提供)
- ・ 営農管理システムを活用したほ場管理データの蓄積を意識付け

2 活動内容

(2) 園芸部門の拡充支援



ピーマン (1,300本)



ねぎ (58a)



さつまいも (21a)



はくさい (13a)

- ピーマン、ねぎは2年目。社員の営農指導経験を踏まえた技術的支援
- さつまいも、はくさいは初めての栽培。栽培マニュアルによる技術的支援とともに、産地発展事業（経費の一部補助）の活用を支援し、負担を軽減

2 活動内容

(3) 雇用の定着と環境整備支援



決算報告書に基づく
経営診断について

令和6年7月
仙台農業改良普及センター

負債の部		資産の部	
目	金額	目	金額
負債	[B 13,735,941]	資本	[4,832,062]
借入金	2,962,481	資本金	5,000,000
入金金	1,800,000	剰余金	(+167,938)
入金金	9,282,641	利益剰余金	(+167,538)
人権等	65,940	純資産合計	4,832,062
その他	24,859	負債・純資産合計	41,483,414
負債	[22,915,481]		
借入金	22,915,481		
合計	28,651,352		

に利益を
の依存度

い。今後
金の積極

営にあた
現金確
流動負債
達、利

益の確保等の意識を。

- 決算（第1期）を踏まえ、経営の安全性、収益性、活動性、採算性を分析・説明
- 自社の経営状況・課題の把握とともに、安定した雇用に向けた意見交換を実施
- 雇用就農資金（雇用就農に係る助成）活用に向けた支援を実施

3 これまでの活動成果

(1) 農地の効率的利用支援

- ・ 営農管理システムを活用し、水稻、大麦、大豆のほ場管理データ（田植え、収穫等の作業月日）の蓄積が開始された。

(2) 園芸部門の拡充支援

- ・ ピーマンは7月より、学校給食（大和町ほか）、市場へ出荷され、ねぎは8月より、産直、市場へ出荷されている。
- ・ さつまいも、はくさいは市場出荷及び契約栽培を想定して栽培中。

(3) 雇用の定着と環境整備支援

- ・ 自社の経営状況を踏まえ、経営の安定化に向けた意識が醸成され、補助金・助成金の積極的な活用に繋がっている。



【営農管理システムによるほ場管理画面】

【活用した事業等（申請予定含む）】

- ① 産地発展事業（種苗経費の一部補助）
- ② 雇用就農資金（雇用就農への助成）
- ③ 園芸作物拡大・定着促進事業（主食用米から園芸作物への転換に係る助成）
- ④ 麦・大豆生産技術向上事業（新たな営農技術導入に係る助成）
- ⑤ 産地生産基盤パワーアップ事業（麦・大豆機械導入に係る補助）

4 今後の対応

(1) 農地の効率的利用支援

- ・ ほ場整備を見据えたスマート農業の活用や農地利用の効率化に向けた情報提供を行っていく。
- ・ 蓄積したほ場管理データ等に基づき、収益性を確保した実現性の高い土地利用計画及び営農計画の作成を支援する。

(2) 園芸部門の拡充支援

- ・ 土地利用型品目との作業競合を踏まえながら、収益を確保できる品目の選定とともに、選定した品目の収量及び品質向上に向けた技術的支援等を行っていく。

(3) 雇用の定着と環境整備支援

- ・ 専門家派遣等を活用し、経営管理手法（特に資金繰り）について習得を支援するとともに、雇用の定着に向けて、就業規則の作成や人材育成の取組などを支援する。